

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○無回答の児童の割合が低い。 ○複数の資料から問題を解くために必要な情報を読み取ることができる児童が多い ●言葉の意味を十分に理解できず、問いに対して条件を満たす回答を選んだり、書いたりすることができない。	・説明文・物語文ともに、文章の構造をとらえる学習を重ねることで、全体の構成や、複数の資料のつながりについて考える力を高める。 ・児童がすすんで言葉について関心をもって調べられるよう、教師が言葉にこだわりをもち、児童に投げかける機会を増やす。
算数	○基本的な計算や、目盛りの値を読み取ることは、よくできている。 ○答えを求めるために必要な条件についてよく理解している児童が多い。 ●もとにする数、単位量あたりの考えを活用して解くことができない児童がいる。	・自分の考えを書くときに、言葉と式をセットにして書く機会を増やす。クラウド上でノートを共有することで、見本となる書き方を参照できるようにする。
理科	○理科に関する用語や、用具の使い方についてよく理解できている児童が多い。 ○与えられた条件から結果やその理由を考えることができていく児童が多い。 ●実験の結果は理解しているが、それを言葉として正しく書くことができない児童がいる。	・実験を通して結論を考えるときに、正誤含めて多くの視点から理科の用語を使って話し合えるような場をもつようにする。

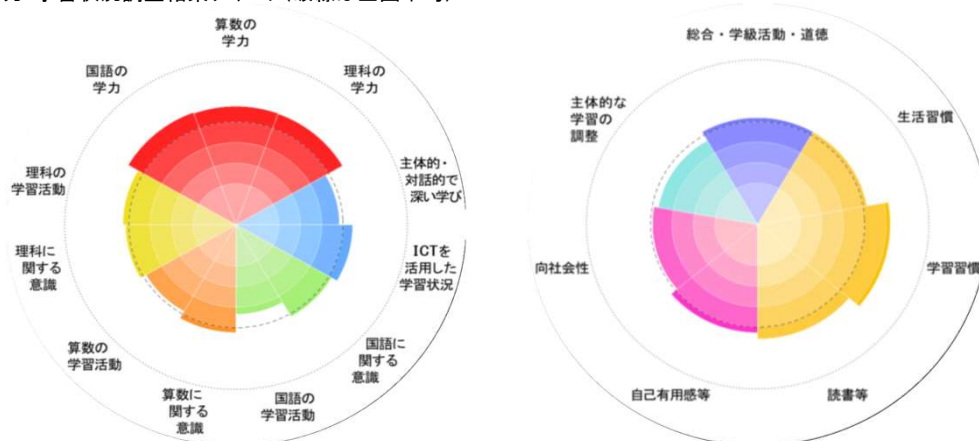
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自己肯定感が高く、先生から認められていると感じる児童が多い。 ○家庭学習を1時間以上行っている児童の割合が高い。 ●タブレットを家庭で使っている割合や、学習方法を改善しようとする児童の割合が低い。	・与えられる課題に取り組むだけでなく、自ら進んで課題をもって学習に取り組むことができるよう、家庭学習で何に取り組んでいるのかをクラウド上で共有する。家庭でのタブレット使用率を高めるために、オンラインで提出するような課題を設定する。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・ICTを活用し、学年の発達段階に応じて意思決定・自己開示・他者参照の機会を増やすことで、協働的・複線型の授業を推進する。 ・家庭学習について、他の児童の見本となる取り組みをすすんで紹介し、全体的な家庭学習の質と量の向上を図る。4年生以上については、共通のクラウド上にアップされたものを児童がいつでも参照できるようにする。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

116

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

